



来週の投資戦略 (10/16-20)

米決算発表に注目

2023年10月15日

小松 徹

注目事項 一 見所

企業決算 — 米国はテスラ (EV 最大手)、わが国はディスコ (6146)。

10月18日、中国7-9月期の実質GDP成長率 — 前年比+4.5%?

10月19日、パウエル連邦準備理事会 (FRB) 議長発言 — 金利変動にコメントは?

10月19日、9月の全国消費者物価指数 (CPI) — 前年比+3.0%、コアコアは+4.1%?

株式市場見通し

先週のわが国の株式市場は急反発後、週末に小幅反落した。米国長期金利が急低下した中で、韓国サムスン電子の決算を受けて半導体業界は底打ちしたとの期待があった。ところが、イスラエルのガザ地区への大規模な攻撃が宣言されていたため、金曜日には市場は売りに押された。来週は米国で主要企業の決算発表があるので、市場の関心はそちらに向くが、中東情勢がどの程度緊迫化するかにも注意することになろう。

来週米国で予定されている決算発表は、火曜日のゴールドマン・サックス (大手投資銀行)、水曜日のモルガン・スタンレー (以下 MS)、テスラ、プロクター・アンド・ギャンブル (一般消費財最大手) など。MS は三菱UFJ フィナンシャル・グループ (8306) の大きな収益源になっているので重要だ。7-9月期の一株当たり利益 (EPS) は 13% 減益が予想されている。先週末に発表された大手米銀の決算は予想以上だった。テスラの7-9月期 EPS は前年比 30% 減益、10-12月期 EPS も 27% 減益が予想されている。値下げが相次いでいるため、増収でも減益が続くだろう。

さて、先週発表されたわが国の大手小売業の決算は素晴らしいだった。発表順に J.フロント・リテイリング (3086)、サイゼリヤ (7581)、ファーストリテイリング (9983)、ローソン (2651)、良品計画 (7453) など。ファーストリは海外の利益が国内を上回り、今後もその傾向が続くだろう。当社は国内の月次データしか公表していないので、海外がここまで伸びているとは想像しにくい。金曜日の株式市場全体が全面安の中、当社の株価上昇が目立った。ローソンと良品は金曜日引け後に決算発表された。ローソンは業績上方修正したが、これで終わりではないだろう。一方、良品は今期業績の大幅増収増益を発表したが、やや高すぎる感がある。

最後に、来週の米国経済指標では火曜日に9月の小売売上高が前月比+0.3%と予想されている。これよりも高い数値は警戒されるだろう。木曜日にパウエル議長がニューヨークの経済俱楽部で経済見通しについて会見をする。最近の長期金利の変動について、あるいは海外情勢や議会情勢について言及するか。植田日銀総裁も金曜日に全国信用組合大会で挨拶するが、株式市場には直接の影響はないだろう。

KPA の投資戦略

ロング (買い)	ショート (売り)
好財務の割安株、今期増益株	高 PB 低位株、高 PE 新興株

(注) ヘッジ・ファンド向け戦略としての一例。投資期間は半年程度を想定。



本レポートは、情報提供の目的のみでご利用者に提供されるものであり、有価証券売買に関する何らかの申し込みまたは勧誘を意図するものではありません。本レポートに記載されるすべての意見および予測は、レポートの日付時点におけるコマツ・ポートフォリオ・アドバイザーズ(以下、KPA)の判断であって、予告なしに変更される場合があります。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析がすべてのご利用者にとって適切であるとの表明を行うものではありません。ご利用者は、投資に伴うリスクとメリットがご自身にとって適切であるかどうか、自己の責任で判断して頂きます。KPAは本レポートについてその正確性、完全性または適時性を保証していません。KPAはいかなる保証も行わないことを明確にしています。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析にご利用者が依拠した結果として被る可能性のある直接的あるいは間接的な損害について責任を負いません。本レポートについての知的財産権はKPAに帰属し、著作権、特許権、商標権その他の知的財産権に関する法令により保護されています。本レポートを印刷した場合も、その印刷物の著作権は、KPAに帰属します。ご利用者は個人的利用を目的としたバックアップのためにのみ印刷、複製することができます。プリントアウトした印刷物や複製したデータを、個人的利用以外の目的で使用することはできません。ご利用者は、本レポートを、有償・無償を問わず、第三者に提供することはできません。また、これを改変、修正することはできません。本規定にご利用者が違反した場合、KPAは金銭的な損害賠償を含む救済手段を請求する権利があります。本レポート執筆時点で、KPA役員あるいはKPAのお客様は三菱UFJフィナンシャル・グループを保有しています。